

## 第4回 枚方市バリアフリー推進協議会 議事録

---

日時:平成29年2月22日(水)午後2時30分～午後4時10分

場所:枚方市市民会館1階 第3・第4集会室

---

### 1. 枚方市バリアフリー基本構想における中間検証の概要について

- ・枚方市バリアフリー基本構想における中間検証（案）の概要説明

### 2. 主な意見等

(委員) 事業計画が未策定であり、定量的評価が低い施設については、今後どのように進めていくのか具体的に示さないと、事業が進まないのではないかと。

(事) 事業を進めるには、まず、各施設管理者がそれぞれの特定事業計画を策定することとなっている。したがって、枚方市道においては事業計画が未策定となっている重点整備地区内の生活関連経路について、なるべく早期に計画を策定していきたい。

(委員) 未整備となっている施設について整備が進んでいない理由は、予算がないからなのか、その他に理由があるのか。事業を進めるためにも原因をもう少し明確に示して欲しい。例えば鉄道駅のエレベーターの設置についても、「構造的な要因」となっているが、設置についてどこまで具体的に検討されたのか。もう少しわかりやすい説明が必要ではないかと。

(事) 枚方市の予算として限りある中で、全ての事業を実施することは困難であるため、全体の施策から総合的に判断し、適切に配分すべきものである。今後も、バリアフリー事業に関しては、市予算及び、国の交付金もできるだけ確保し、できることから事業を進めていきたい。

(アド) 構造的な要因を解消するための詳細な検討は、設計費等を含めそれだけでも費用が必要となる。まずは、できることから改善しているというのが現状と思われる。課題の解消が図られるは、施設の更新や大規模改修の際になるとと思われるが、課題解消には大規模改修をしないと難しい理由は、できるだけわかりやすく示すよう、各事業者は検討して欲しい。

(委員) 中間検証の「定性的評価」では、現地調査での課題に対して「きめ細かな対応が必要」とされているが、多くの要望に対して一度に全て対応することはできないため、整備の必要性に応じて優先順位をつける必要があると考える。

- (委員) 中間検証では、事業の進捗状況について、未整備の事業がいつ実施されるのか、その為の予算が確保されるか、という点についても今後、具体的に示していく必要があると考える。そのためにも、本協議会において事業者間での連携が重要であり、連携を図ることで、各事業者で個別に特定事業計画を作成する時にも、より効果的な整備が進められるものとする。したがって、報告書案の中にも、事業者間の連携について示す必要があるのではないか。
- (アド) 未整備となっている項目や、整備項目以外で要望がある項目への対応をいつどのように進めていくのか。今後の予定や目標がもしあれば、今後、各事業者には説明をお願いしたい。
- (委員) 一旦、利用実態を確認しないまま施設を作ってしまうと、その課題を解消するための施設改修には多くの出費が必要となるため、結局、課題の解消は難しいということが、この中間検証で分かった。バリアフリー化の整備後に利用実態とあっていないといった課題が出ないように、計画の段階で当事者の意見を取り入れて欲しい。
- (アド) 当事者の意見を事前に取り入れる事前チェックは、今後、バリアフリー事業を推進する上で非常に重要な視点であり、中間検証においても位置付けている。この点について、事務局の考えを示して欲しい。
- (事) 枚方市バリアフリー基本構想等の策定においても、当事者にも参加していただき、事前の現地調査を実施している。今回の中間検証では、整備された施設の検証のため、枚方市駅および周辺道路について現地調査を行った。今後も、中間検証(案)の「バリアフリー事業の推進にあたって」の図で示すとおり、本協議会によるチェックや検証を行いながらバリアフリー事業のスパイラルアップを図っていく。
- (アド) 今後、整備主体である事業者が計画段階でバリアフリー推進協議会に意見を図る事前チェックシステムについて検討して欲しい。
- (アド) 中間検証のまとめについて、評価の方法や、評価がどこにつながっていくのかという点、語句についても、誰もがわかるように説明する必要がある。
- (アド) 中間報告書については、協議会での意見を反映させ、事務局でまとめ、公表していくようお願いする。

### 3. その他の意見

- (委員) 京阪枚方市駅では、男女別トイレの表示について改良していただいたが、その他については4, 5年前からあまり状況が変わっていないと感じている。中央改札と東口をつなぐ通路の段差解消について、他駅では、段差を解消しているところがあり、枚方市駅ではなぜスロープが設置できないのか教えていただきたい。
- (委員) 枚方市駅では、中央改札と東口を結ぶ通路の一部をスロープ化すると、ホームへの階段・居室等既存の施設に与える影響範囲が大きく、現状ではスロープの設置が難しい。
- (委員) 枚方市交通バリアフリー基本構想が策定された約10年前に比べるとバリアフリー化が進んでいると実感しているが、聴覚障害者に関する整備としては、電光掲示板の設置など、まだまだ整備が不足していると感じる施設もあるので、引き続き整備をして欲しい。また、ホーム先端の視覚障害者の警告ブロックについて、凹凸が大きいため、つまずくことがある。必要な施設ということは理解するが、つまずかないよう改善できないか。ホーム柵の設置をしていただければありがたい。
- (アド) 点字ブロックについては、視覚障害者にとっては必要な施設であるが、つまずく等の課題はある。これについては本協議会で解消することは難しい課題。
- (委員) 前回の協議会で鉄道での視覚障害者への声かけの啓発についてお願いしたところ、その後、鉄道車内で啓発について丁寧な放送がされた。ただ、ホームでの放送と商業放送が交錯している場合があり、音声案内を設置した場合には、聞き取りづらくないか、検証する必要があると感じる。枚方市駅ではエレベーターの行き先に関する音声案内がされていないが、他駅では外付けのスピーカーで対応しているところがある。施設の大規模改修を待たずに、少ない予算で対応が可能な措置がないか、検討して欲しい。
- (委員) 障害者差別解消法の施行により、バリアフリーがさらに進んで欲しい。障害者差別解消法では、お互いが納得する合理的配慮がされることとされている。(大阪府、警察など) 行政機関の文書において、「障がい者」と表記されているところがあるが、理由を教えていただきたい。
- (委員) 知的障害者に対しては駅員による声かけが重要となる。当事者にヘルパーが同伴しているときは駅員の方の声かけはいらないが、当事者だけの際に声かけがなく、切符を持たず改札を通過する場合がある。本人の安全だけでなく、状況により他の利

用者とぶつかってしまうこと等も考えられるので、相互の安全のためにも駅員の方に切符を持たずに改札口を通る時はなるべく声かけをお願いしたい。

(委員) 昨年より、身体障害者の方へ適切なサービスが提供できるように、知識とスキルを身に付けるため、駅係員の研修を行っている。また、サービス介助士の資格取得推進に取り組んでいる。

(委員) 今年度から進協議会に参加したが、今回の推進協議会を通じてバリアフリー事業の課題や難しさがわかった。

(アド) この枚方市バリアフリー推進協議会での検証では、様々な課題が挙げたが、各事業者においては、まちを良くするという意味で、施設の整備に向けては前向きに取り組んでいただくようお願いしたい。

### 3. その他の確認事項

- 第3回枚方市バリアフリー推進協議会の議事録を確認
- 来年度以降も引き続き協議会の活動を行っていく事について確認

※ (委員) : 当事者・管理者・事業者等

(アド) : アドバイザー (学識経験者)

(事) : 事務局